

明るい釜ヶ崎を建設するため

大阪市民生局



めいけいん学園開校式風景

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

釜ヶ崎対策

本市の釜ヶ崎を含めたスラム対策についての予算は、昭和36年度と昭和37年度の両年度予算を合わせますと、約5億円にも達します。その予算総額は、人口3万の小都市の年間総予算にも匹敵する規模のもので、大阪市がいかにこの問題を重要と考え、真剣に取り組んでいるかを御理解願いたいと存じます。その施策は応急的なものと、恒久的なものとの二つに分けられますが、釜ヶ崎、の夜明けのために、どのような施策が進められているか、御紹介したいと思います。

○地域住民の協力体制

地区の改善を目指して、昭和35年9月に地域の各種団体や有志によって「西成愛隣会」が結成され、地域の体質改善のために、その活動が活発に行われています。

○愛隣会と市対策の拠点「第一愛隣会館」の建設

釜ヶ崎の中心地にある西成区甲岸町21番地の市民館に隣接した空地に、木造2階建(延100坪)に総経費5百万円をかけて第一愛隣会館を昨年4月に建設しました。この建物は生活指導室、婦人相談室、内職作業室、学習指導室、相談室、診療室など地域のニーズを満たす機能を持った施設で、愛隣会の活動拠点になっています。

○小口生活資金の貸付

従来の生活資金の貸付は、色々な制約があって、住所が定まらず、身分がはっきりしない人達には貸出しが出来ない事情があるので、そういった本当に生活に困っている人達に、生活のつなぎ資金として、最高3千円までを貸付ける制度を設け、応急の小額資金に困る人達には、大変好評を得ています。

○道路の整備、街灯増設、特別清掃

環境の整備のために、釜ヶ崎の主要道路はアスファルトの美しい舗道に改装し、約200灯に及ぶ明るい街灯が設けられました。また特別清掃班を設け、街を美しくするために格別の努力を払っています。

○保健所分室の新設

地域の人達の健康のために、愛隣会館に保健婦2名を常置させ、毎月地域内をくまなく回っています。

また衛生監視員4名を配置し、飲食店や宿屋の衛生指導を行ったり、住民の健康相談等にも活躍しています。

○警察の防犯コーナー

暴動事件があった後、西成警察署に防犯相談コーナーが誕生しました。ママポリスのアベック三組が毎日地区を回って不就学児の発見につとめ、入学手続、住民登録、その他保護養育の連絡や手続きの一切の世話をし、多数の不就学児を発見し、あいりん学園に送っていただき、本市の民生、教育行政に多大の協力を賜っております。

○市福祉事務所のケースワーカー

3名のベテラン、ワーカーが足を棒にして、毎日被保護11帯の訪問あるいは発見に努めています。

○保育所

十半前から市が設置していますが、現在どこも満員の盛況であります。当地域には子供を預けて働きたい婦人が多く、保育所よりも託児所の設置が適

切であります。なにしろ土地難のため目下物色であります。

○勉強場のない学童、長欠、不就学児のために

愛隣会では教員、学生ボランティアの協力を得て約60名の保護者不在家庭の子供を春、夏、冬の休みに毎週二回、学習指導を行なっています。現在の場所ではせま過ぎるため第二愛隣会館が出来次第毎日実施する予定です。

○あいりん学園の開校

不就学児童のための特別学校として西成警察署前の空地进行して仮校舎を建設し、現在60名の生徒が4人の先生と一緒に勉強しています。また教育委員会としては全国初のテストケースとして踏切ったもので地元協力を必要としています。

○簡易宿の整備

当地域には1万人以上の低所得者が約300軒以上の簡易宿、アパートに密集しているため建築局と保健所の協力で約60軒のヤミドヤ（不法建築、不法占拠）の整備指導を行なっています。また正規の宿屋130軒をもって新しい組合が完成され市の指導協力により簡易宿の改善向上が進みつつあります。

○低家賃宿泊所の建設

釜ヶ崎の西方にやっと土地を得て鉄筋3階建の90室をもつ宿泊所を建設します。高い家賃に苦しむ世帯を入れるため年内中に完成予定です。

○馬淵生活館、宿泊施設の建設

日本最大の不法占拠によるスラム街、馬淵、水崎町(釜ヶ崎に隣接)に鉄筋5階建2棟の宿泊施設を建設中であります。うち1棟1階には愛隣会館同様の生活館(保育併設)を設置し、宿泊施設入居者(340世帯)及び地域住民の生活指導にあたるものであり、第1期工事は9月末完成、第2期工事は年内中に完成する予定です。

○単身労働者宿泊施設の建設

釜ヶ崎から港湾労働者として働きに出ている人々のために、港区に宿泊施設を建設し、釜ヶ崎の分散と港湾労働者の定着を図るため、鉄筋3階建、240名を収容できる宿泊施設を11月末に完成予定であります。

○第二愛隣会館の建設

第一愛隣会館が狭小なので総合拠点として第二愛隣会館を建設中です。当会館は建坪100坪の鉄筋5階建であり、総合相談所(昼夜)、各種相談コーナーの詰所、青少年補導室、学習指導室、浴室、調査研究室、娯楽室、集会室等を設置し、4階、5階はあいりん学園の教室にあてられ、屋上は簡易運動場となる。既に1月末に着工し、7月末に完成するよう工事を急いでいます。

○各出先機関の連絡調整

市、区役所、愛隣会、保健所、警察署、消防署、南工管所、清掃事務所、西成職業安定所、府労働部西成分室等の関係出先機関の連絡会を随時開き、総合的協力活動を進めています。

市の釜ヶ崎対策に対し、各報道機関はもとより、特に明日新聞大阪厚生文化事業団及び各方面の篤志家から物心両面にわたる多大の御支援をいただいていることを、この機会に厚く御礼申上げると共に、まだ緒についたばかりの市の対策に対し、今後一層の御支援、御協力をお願い致します。

日本の底辺だといわれている釜ヶ崎は、昨年夏の暴動事件が契機となって、大阪はもちろんのこと、日本のあらゆる人達の関心を引き起し、釜ヶ崎の持っている特殊な立場や条件を改めて認識する機会を創り出したといえましょう。

大阪市におきましても、暴動がおきる前から、釜ヶ崎の住民の幸せを高めるために、地域の改善や、住民の福祉を向上させるために調査研究や対策の樹立、さらに可能な範囲で、有効と思われるものを打出して参りました。そうした企画が軌道に乗る前に、暴動事件が起きたことは、大変残念なことだと思っています。

しかし、あの暴動事件があったことが契機になって、大きな刺激を受けると共に、各界各方面の御批判、御助言やさらに強力な御支援を受け、本市の釜ヶ崎対策は本格的なものに進んで参っております。

その概要を皆様に御報告すると共に、今後とも市民各位の御支援と御協力を賜りたいと存じています。

■愛隣会と市対策の拠点

■地域住民の協力体制

■「第一愛隣会館」の建設

■道路の整備

■小口生活資金の貸付

■街灯増設、特別清掃

■保健所分室の新設

■市福祉事務所のケースワーカー

■警察の防犯カーナー

■勉強場のない学童、長欠、不就学児のために

■保育所

■あいりん学園の開校

■簡易宿の整備

■馬淵生活館、宿泊施設の建設

■低家賃宿泊所の建設

■單身労働者宿泊施設の建設

■第二愛隣会館の建設

■各出先機関の連絡調整